



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和2年7月30日 第10巻(第1号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

巻頭言 石巻の近況報告



1. 新職員 自己紹介
2. 石巻現地プロジェクト(災害支援活動10年の軌跡の縦断的研究)
3. 2020年4月6日 ～フィールドワークにて～
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記



疫病退散だっちゃん!



新型コロナウイルス流行拡大中 ご注意ください!!

## ◇ 巻頭言

石巻事務所

現地責任者 福井 康江

今年度は4名のスタッフで賑やかにスタートしたものの、コロナウイルス感染拡大防止の為、訪問活動の自粛やグループ活動や会議等の延期などもあり、例年通りとはいかない年度始まりとなりました。その後、With コロナの言葉の下“新しい生活様式”が始まることとなりましたが、九州地方を中止とした豪雨災害が生じ、内閣府の発表（7月18日現在）によれば亡くなられた方77名、行方不明の方7名、15,000棟以上の住宅被害が生じており、111カ所の避難所に2,277名の方が避難されている状況となっています。また、コロナ禍の中の災害支援活動では、人的体制や衛生材料等の確保などの苦労も続いていることと思います。

自然との共存、経済と福祉の在り様、家族・人とのつながり、とは…。東日本大震災以降ずっと問い続けてきましたが、今まだ明確な答えが出ないままです。しかし、共に居ること、共に有ることの実現と理解をあきらめることなく続けて行きたいと思います。

ここ数か月の事業の動きとしては、体調を崩される方が続き受診同行や救急対応となった方もいらっしゃいました。また、生活保護の申請相談も続いており、特に中高年の方の生活困窮への相談支援は今後も続くと思われまます。

また、6月1日より、包括ケアの拠点施設「ささえあいセンター」が開所となりました。センターは市役所西側に位置し、歩行者デッキで市役所と、市立病院とつながっています。1階は駐車場、2階は“まるごと相談窓口”を備えた包括ケアセンター、子育て支援スペース等、3階は社会福祉協議会と200人収容のホールが入っています。災害時には高齢者や障害者、妊婦さんを受け入れる福祉避難所としても想定され、水や食料、車いすなども備蓄する倉庫も設けられています。行政、保健・医療、福祉の3つのつながりが増々強化されてゆくことを期待し、私達も活用してゆきたいと思います。

〔画像：ささえあいセンター外観〕





## 1. 新職員 自己紹介

石巻事務所

現地担当 軍司 智之



本年 4 月 1 日より日本医療社会福祉協会 石巻事務所に入職しました。これまで宮城県気仙沼市で被災者生活支援事業に携わってきました。その後、震災関連の仕事から一時離れましたが、これまで仕事を通じて関わった方々と会うたびに「やり残したことがあるのではないか？」と言われる機会が多くなり、再度被災者の方々と歩みを進めることを決意しました。

被災してから 9 年が経過したとはいえ、甚大な被害をもたらした災害は私自身も被災者として忘れることができません。忘れられないのであれば少しでも教訓として自分が活動してきたことを被災者の方々に寄り添いながら支援していければと思っています。

誰しも様々な生活課題に対峙した時、表情が暗くなりがちですが安心感を持っていただけるよう伴走していきますのでよろしくお願いいたします。

石巻事務所

現地担当 大垣 晴香



本年 4 月 1 日に日本医療社会福祉協会へ入職いたしました。当協会に入職する前は精神科病院で勤務しておりました。今回この職場で勤務をするにあたり、前職の知識をどう生かしながら仕事をできるかな、と模索しながらあっという間に 3 か月が経過しました。

実際に石巻市に住んでみると、自分が思っていたよりも復興は進んでいる印象を受けました。いたるところに復興住宅があることがわかりました。実際に復興住宅に行くと掲示板には「お茶っこ会のお知らせ」というチラシが掲示してあり、定期的に住民同士の関わりがあることを知りました。今年度はコロナで思うように開催できていない状態ではありますが、住民同士での関わりを持つことは大切と感じました。ただそんな中、独居で近所との関わりがない方もいらっしゃいます。そういった方には当協会が関わることで、安定したその人らしい生活を送っていただき、横のつながりを作ることができるように、自身の今までの経験や知識を生かしながらサポート・支援していくことができたらいいなと考えています。

ほとんどが初めての経験となるため情報や知識を柔軟に吸収し、今後の活動に生かしていきたいと思います。

## 2. 石巻現地プロジェクト（災害支援活動 10 年の軌跡の縦断的研究）

石巻事務所

現地担当 平野 裕司



### 【はじめに】

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から 9 年が経過しました。日本医療社会福祉協会（以下、当協会と記す）は、被災者支援を展開するために同年 3 月 15 日に災害対策本部を立ち上げ、同年 4 月 2 日から宮城県石巻市遊楽館にて福祉的避難所でのソーシャルワーク実践を開始。同年 4 月 10 日、15 日～17 日は避難所以外で暮らす被災者の生活状況を確認する為のローラー作戦に参加・実施してきました。同年 7 月 13 日からは石巻市より「社会福祉士等相談支援事業」の委託を受け、同年 9 月 30 日遊楽館 福祉的避難所解散までソーシャルワーク実践活動を展開してきました。また、遊楽館閉鎖後は応急仮設住宅等で生活を営む住民、今日では復興公営住宅で生活を営む住民の生活再建・維持するためのソーシャルワーク実践活動を継続して展開しています。

### 【検証プロジェクトの目的】

この検証を実施する目的は 2 つあります。

1 つ目は当協会が東日本大震災後、石巻市でどのようなソーシャルワーク実践をしてきたのか縦断的に明らかにすることです。当協会のように東日本大震災以降石巻に入り活動している団体はありますが、現在ソーシャルワークという枠組みで支援活動を展開しているのは当協会だけになります。また、これまでの社会福祉分野の研究をみても 10 年間同じ被災地でソーシャルワーク実践活動を展開し、それを検証した縦断的研究は皆無に近いからです。

2 つ目は災害後のステージ毎に求められるソーシャルワーク実践のあり方を示すことです。これまでに発刊されている、「東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援バトン」を概観してみると、ステージ毎に被災者が抱えた生活課題、求められた支援が異なることがあきらかになりました。したがって、当協会が行ってきたソーシャルワーク実践活動の記録を縦断的に分析することで、ステージ毎に求められるソーシャルワーク実践が明らかになります。

### 【進捗状況】

#### 第 1 回打ち合わせ：

2020 年 6 月 26 日（金） 当協会石巻現地事務所にて開催。今後の方針作成、災害時ソーシャルワークのあり方について勉強・議論しました（笹岡眞弓統括・大橋謙策アドバイザー来石）。

## 第2回打ち合わせ：

2020年6月29日（月）当協会石巻現地事務所にて開催。今後の方針の確認、研究助成金の申請について確認・検討しました（笹岡眞弓統括・西田知佳子アドバイザー来石）。

### 【今後について】

今後も定期的に打ち合わせ、分析結果の（内部）報告等行いながら進めていきたいと思えます。また、過去に石巻現地事務所に勤務されていた方に当時の活動状況等についてヒアリングさせていただくこともあるかと思えます。その際は何卒よろしくお願いいたします。

## 3. 2020年4月6日 ～フィールドワークにて～

大川小学校跡地に行き、慰霊碑の前で手を合わせました。児童の声や学校のチャイム音はなく、工事車両の音が鳴り響いていました。スタッフ4人それぞれ感じるものがあり、改めて防災教育の重要性を感じました。

石巻市と同じく、東日本大震災の被災地、岩手県釜石市では「津波てんでんこ」という教えがあります。震災後の2011年12月に87歳で亡くなった大船渡市の津波研究家山下文男さんが命名しました。それは“てんでばらばらに逃げろ”という意味とのことです。「一瞬の迷いが犠牲を生む」「自分だけ助かっても悪くない」三陸地方を度々襲った津波の被災体験から導き出された教えでした。

（河北新報：[https://www.kahoku.co.jp/special/spe1114/20130624\\_01.html](https://www.kahoku.co.jp/special/spe1114/20130624_01.html)）。

そんな教えや東日本大震災の記憶を後世に伝え、津波発生時に迅速な避難を呼びかける「新春韃天（いだてん）競争」が同じく釜石市で毎年開催されています。参加者は津波で浸水した市街地から高台にある日澤山仙寿院（市の津波災害緊急避難所）まで、坂道を一気に駆け上がります。今年は小さい子に教えたいと親子の参加が多かった様子です。震災後に生まれた子どもたちに、「伝承」することが改めて求められています。

（河北新報：[https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/202002/20200203\\_33001.html](https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/202002/20200203_33001.html)）



4. 災害支援チームからのお知らせ

お 知 ら せ

「東日本大震災

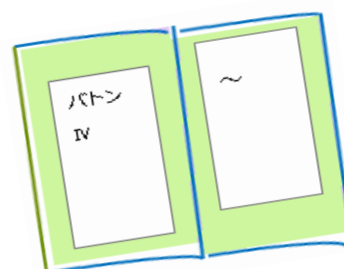
医療ソーシャルワーカーの支援のバトン

I ~ IV」

が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ

及び 下記【1. 書籍販売】をご覧ください。



【1. 書籍販売】

- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この 5 月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=50](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50)

バトンⅢ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

バトンⅣ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=59](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59)

## 【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願ひいたします。

URL:<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

### 【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」



URL:<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4..feature=youtu.be>

### 5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 令和2年11月（暫定）

（令和2年度は原則として4ヶ月に1回の発行となります）



◇ 編集後記

大垣 晴香

梅雨が明ければ、いよいよ夏本番がやってきます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回、今年度初の災害支援ニュースをお届けいたしました。

当協会に入社して早 4 か月が過ぎようとしています。個人的ではありますが、宮城に来たらいろいろなところへ観光をしたいと考えていました。しかしコロナの状況があるためそれもできず残念な思いでいっぱいです。これからは新しい生活様式に基づいて、こちらの名産を堪能したいと思います。

業務の訪問等に関しても自身の体調に気を付けながら自分が媒介になることのないように注意しながらいきたいと思っています。

今年度もいろいろな出来事をお伝えできればと思いますのでよろしくお願いいたします。

